

広報

しんじょう

8
2009

SHINJO PUBLIC RELATIONS No.620



市制施行60周年記念フラッグの制作 (7月11日/アビエス)

市制施行60周年記念特集.....2

区長と市長のまちづくり会議.....8

シリーズ市町村合併.....10

高額療養費の医療・介護合算制度.....12

しんじょう見聞録.....14

8月のお知らせ.....16

人 学び 輝く.....18



新庄市ホームページ

<http://www.city.shinjo.yamagata.jp>
E-mail info@city.shinjo.yamagata.jp



年の軌跡

誕生から60年の歳月を経た新庄市。
まちは多くのドラマを生み変貌を遂げた。
人とまちによって築き上げたものは、
時を超えて、次の世代へと受け継がれていく。

新庄市誕生

- 1949 — 1964 [昭和24年～39年]
1949 * 昭和二十四年
四月 / 市制施行、県内五番目の市となる 人口三〇、九六五人
五月 / 市章、市民歌制定
- 1950 * 昭和二十五年
五月 / 新庄市報創刊
- 1952 * 昭和二十七年
四月 / 市立養老院(現神室荘)開設
- 1955 * 昭和三十年
一月 / 現市庁舎完成
四月 / 萩野村を合併、人口三八、六〇三人
八月 / 全国高等学校野球選手権大会甲子園に新庄北高初出場(同三十四年八月二度目の出場)
- 1956 * 昭和三十一年
四月 / 陸羽東線にディーゼルカー運行(同三十二年四月奥羽本線、同三十三年四月陸羽西線)
九月 / 八向村を合併、人口四三、六一六一人
十一月 / 上水道給水開始
- 1962 * 昭和三十七年
一月 / 交通安全都市宣言
- 1965 — 1974 [昭和40年～49年]
1966 * 昭和四十一年
十二月 / 県内初の消雪道路駅前通りに完成
- 1967 * 昭和四十二年
十二月 / 国道十三号新庄バイパス開通(鳥越～泉田間)
- 1968 * 昭和四十三年
十二月 / 全国二番目の無雪都市宣言

市民生活の充実

- 1975 — 1984 [昭和50年～59年]
1975 * 昭和五十年
七月 / 新庄サイクルスポーツセンター完成
- 1977 * 昭和五十二年
七月 / 陸上競技場完成
- 1979 * 昭和五十四年
三月 / 第一次新庄市振興計画策定
四月 / 新庄横根山工業団地分譲開始(同五十九年七月新庄中核工業団地分譲開始)
- 六月 / 市民憲章制定
- 1983 * 昭和五十六年
十月 / 市民文化会館開館
- 1983 * 昭和五十八年
八月 / 陣峰市民の森オープン
十一月 / ふるさと歴史センター開館
- 1984 * 昭和五十九年
三月 / 平和都市宣言
六月 / 市の木・モミ、市の花・アジサイを制定
- 1985 — 1994 [昭和60年～平成6年]
1986 * 昭和六十一年
八月 / 岡山県新庄村・奈良県新庄町(現葛城市)と友好自治体盟約締結(平成元年四月茨城県高萩市と締結)
- 1987 * 昭和六十二年
二月 / 第一回みちのく民話まつり開催
六月 / 暴力のない明るい都市宣言
十月 / 第一回がみ大産業まつり開催
- 1988 * 昭和六十三年
八月 / 市立図書館開館

田園都市の確立

- 1995 — 1999 [平成7年～11年]
1995 * 平成七年
五月 / 奥山峰石氏重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定
- 1996 * 平成八年
七月 / 茨城県高萩市・秋田県角館町(現仙北市)と災害時相互応援協定締結(同八年八月奈良県新庄町・岡山県新庄村と締結)
- 1997 * 平成九年
二月 / 酒田市、秋田県湯沢市・本荘市(現由利本荘市)と災害援助協定締結
三月 / 新庄雪水防災研究支所雪水防災実験棟完成(世界最大規模)
- 十一月 / 雪の里情報館開館
- 1998 * 平成十年
三月 / 新庄・最上さくらが丘斎苑開設
七月 / 新庄市勤労者総合福祉センター開館(現わくわく新庄)
- 1999 * 平成十一年
六月 / 環境保全都市宣言
十二月 / 山形新幹線新庄延伸開通
- 2000 — 2009 [平成12年～21年]
2000 * 平成十二年
十月 / わらすこ広場開設
十二月 / 新庄市民スキー場開設
- 2001 * 平成十三年
十月 / 全国生涯学習フェスティバル「まなびびア山形2001」開催
- 2002 * 平成十四年
五月 / 新庄南バイパス全線開通
六月 / 全国都市緑化フェア「やまがた花咲かフェア」開催

1949

昭和24年

県内5番目の市として生まれた新庄市。
戦後の復興をいち早く進めるため、
地域資源を生かす総合開発に全力を傾けた。

先人たちの業績に深く感謝し、
地域資源を見つめなおし、
豊かな自然と伝統・文化を子どもたちへ。

しんじょうの歩み 60



軌跡をたどり、未来へ 新庄市長 山尾順紀

昭和二十四年四月一日、新庄町と稲舟村が合併して新庄市が誕生し、その後昭和三十年に萩野村、昭和三十一年に八向村と合併して現在の新庄市が形づくられました。それから六十年、「田園都市」の実現にむけ、創意と英知によるまちづくりに取り組んでまいりました。そして今、社会が大きく変貌を遂げるなかにあっても「市民が主役、市民が動く、市民が光るまちづくり」

を基本としながら、安心して、また誇りをもって住み続けることができるまちにしたいと考え、日々努めています。昨今の経済危機のなか、地域経済は厳しい状況が続いています。このような時こそ、地域・市民が一体となり対応していかなければなりません。この六十年の節目は市として一層の活力を生み出す再出発のステージとしてまたとないきっかけのときでもあります。

先に開催いたしました記念事業は、市民のパワーが見事に結集した最良の日となりました。昨年十一月から企画会議を立ち上げ、梅雨時も恐れず日程を組み、そして一つ一つ問題を解決しながら当日を迎え、新庄市の未来を讃えるかのような天候に恵まれました。午後九時の終了まで人が途切れることなく、大勢の皆さまに参加いただいたことに関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。また、新庄

青年会議所の創立四十五周年事業と一緒に開催することができ、乗馬体験や最後の花火などで、大いに会場を盛り上げていただいたことに心より感謝申し上げます。六十年の大きな節目を迎えることができたのは、市勢発展に向けた多くの方々の「尽力のたまもの」であります。心より感謝するとともに、今後も未来へ誇れるまちづくりのため、お力添えをいただきますようお願い申し上げます。

1969*昭和四十四年
十二月／旧矢作家住宅が国の重要文化財に指定(同六十一年十二月鳥越八幡神社が国の重要文化財に指定)(同六十二年五月新庄藩主戸沢家墓所が国史跡に指定)

1970*昭和四十五年
十一月／最上広域市町村圏事務組合設立

1971*昭和四十六年

四月／最上広域消防本部、消防署発足

1972*昭和四十七年

二月／第一回新庄雪まつり開催

八月／47インターハイ開催(バドミントン)

1974*昭和四十九年

二月／豪雪、最深積雪三三六センチ

八月／八・一水害、被害約三十六億円

1989*平成元年
十月／市民プラザ開館

1991*平成三年

十月／新庄まつり山車が、隅田川まつりと大阪御堂筋パレードに参加(同四年十月日本橋・京橋まつりに参加)(同六年十月、同九年十月東京銀座まつりに参加)

1992*平成四年

九月／国道四十七号亀割バイパス開通
十月／べにばな国体開催(自転車・バドミントン・ボクシング)

1993*平成五年

八月／市民球場完成

1994*平成六年

六月／健康・福祉都市宣言

十一月／駅前ふれあい広場「アビエス」完成

2003*平成十五年

六月／新庄駅開業百周年
十月／国民文化祭開催(民謡・民舞、連句、民話、環境芸術)

2005*平成十七年

四月／山形大学「エアキヤンパスもがみ」発足
八月／新庄まつり二百五十年祭開催

2007*平成十九年

三月／夜間休日診療所開設
四月／市営バス運行開始

2008*平成二十年

十月／第一回新庄味覚まつり開催

2009*平成二十一年

三月／新庄まつりの山車行事が国の重要無形民俗文化財に指定
四月／市制施行六十周年

2009

平成21年



新庄市市制施行60周年 記念イベントを開催

しんじょう 再発見! ひとみらい

TSUNAGU



- ① 沼田小学校合唱部による市民歌斉唱で記念式典が開幕。小原流新庄支部による「いけばな」が式典を演出。
- ② 記念フラッグには夢やイラスト、メッセージなどが描かれる。
- ③ 多くの来賓の前で小月野囃子若連が新庄まつり囃子を演奏。
- ④ 式典終了と同時に地元の食をテーマにした出店がオープン。
- ⑤ ふるまい餅つきに掛け声が響く。
- ⑥ 新庄青年会議所によるキャンドルナイトの幻想的な雰囲気と記念花火。
- ⑦ 新庄太極拳愛好会が太極拳を披露。
- ⑧ 式典のオープニング演奏も務めた新庄吹奏楽団による演奏。
- ⑨ すみれ歌謡愛好会が懐かしのヒット曲メドレーを披露。
- ⑩ すぎのこバンドが元気いっぱい演奏。
- ⑪ 新庄おどり睦会・新庄民舞リボンの会

七 月十一日、アビエスとゆめりあを会場に、市制施行六十周年記念式典・記念事業を開催しました。「市民の皆さんが気軽に参加でき、楽しめる記念事業」を目指して市民の方々の協力を得ながら企画実施されたこのイベントは、梅雨の合間の夏空のもと、子どもから大人まで多くの人たちが集う盛大な催しとなりました。

また、市民提案事業のひとつである、新庄青年会議所によるイベント「伝へ伝えたい伝統、守りたい文化」も同時開催され、伝統文化の体験や乗馬、花火打上げなどで会場は大いに盛り上がりました。



12



12



12



12



13



11



伝
DEN

伝えたい伝統、
守りたい文化



6



7



8



9



10



11



11



5



5



5



5



5



5



5



5



1



1



1



1



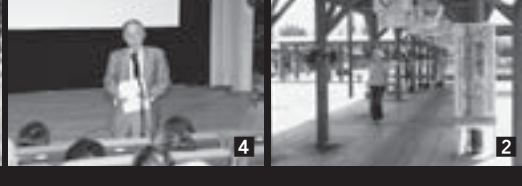
1



1



1



2

1 友だちと家族と記念フラッグの作成。
2 市民提案事業として、花の風の会が駅東口や会場周辺にハンギングバスケットなどを飾り華やかさを演出。
3 ストリートギャラリーでは、画集新庄・昔の街並みのさし絵を展示。多くの人が足を止めて見入る。
4 ホールアベージュで新庄懐かしの映像上映会を開催。
5 大人、子ども、スタッフすべての人に笑顔があふれる。

伝へ伝えたい、伝統、守りたい、文化へ

先人から受け継がれた知恵や伝統、物の大切さなどを教えてもらい、郷土愛をはぐくみ、地域や環境について学んでもらいたいと各種の体験コーナーなどを設置。多くの子どもたちが、地域の伝統や文化に触れました。
6 地球温暖化防止を呼びかけようと、キャンドルナイトを開催。
7 懐かしの昭和の名車が大会台
8 もがみ体験館で新庄民話の会が昔話を披露。
9 ニューヒーロー「アジシャイン」が会場に登場。

10 乗馬体験コーナーも子どもたちに大人気。

11 昔の遊びコーナーでは、金魚すくいやペーゴマ、あやとりなどが人気を集めた。

12 ゆめりあ内で開催された体験コーナーでは、子どもたちが、隠明寺風や木工クラフト、虫かごづくりなどにチャレンジ。

13 アビエス会場に出現した昭和の暮らし展示。懐かしい生活用品に足を止める。

みらいへ TSUNAGU ふるさと文化



親子三代 山車づくり ～受け継がれるDNA～

横町・下万場町若連
佐々木 佳昭さん(57歳)
亮さん(34歳)・壱希くん(8歳)

「まつりは参加してなんぼ」そう語るのは、横町・下万場町若連で30年近く山車づくりをしている佐々木佳昭さん。現在は、長男の亮さんと孫の壱希くんも参加し親子三代で山車づくりに励んでいます。

「山車づくりをはじめたのは亮が生まれてから。亮も小さいころからまつりに参加していたし、今は孫の壱希が一番まつりを楽しみにしている」と佳昭さん。「壱希がまつり好きなのは8月生まれの宿命。生まれたときからまつり好きのような感じです。2歳から山車を引きはじめ、3歳のときには山車運行の全行程を歩くほど。すぐに囃子演奏もできるようになりました。寝ても覚めても一年中まつりがはなれないようです」と話すのは壱希くんの父親の亮さん。「とにかくまつりが大好き。山車づくりも大好きで、紙を貼って山を作ったり桜をつけたり手伝うのが楽しい」と話す壱希くんは、はじめに山車の山ができて、次に館を乗せ、最後に人形がのるなどの作業手順を理解しその工程を楽しみながら作業を手伝っています。お母さんの美穂さんは、「壱希が山車づくりに参加して町内の人たちにすっかり顔を覚えてもらいました。いろいろなところで声をかけていただくので地域の人たちに守られているように感じます」と話す。平成17年の大阪御堂筋でのパレードを一家で見に行くほど全員がまつり好きの佐々木さん一家。佳昭さんに今年の見どころを聞くと「まつりは全部が見どころ。最近は孫にかこつけているが、実は自分もまつりになると黙ってられない」と笑顔で答えてくれました。まつり好きのDNAは、また次の世代へと受け継がれていきます。



▲親子三代で山車づくり



▲大阪御堂筋パレードにて

国の重要無形民俗文化財

新庄まつり Shinjo Festival



■新庄の夏は、まつりの熱狂でフィナーレを迎える。圧倒的なスケールで、見る者を魅了する新庄まつり。今年3月、国の重要無形民俗文化財の指定を受け、名実ともに東北を代表する山車祭りとなった。その歴史は古く、今から254年前の江戸中期までさかのぼる。宝暦6年(1756)、時の藩主・戸沢正誼(まさのぶ)が、前年の大凶作にうちひしがれている領民に活気と希望を持たせ、豊作を祈願するため、戸沢氏の氏神である天満宮の祭典を領内あげて行ったのが起源とされる。宵まつり・本まつりに豪華絢爛を競う日本一の山車パレード、200人の侍が警護する古式ゆかしい神輿渡御行列、新庄城跡で舞われる風雅な萩野・仁田山鹿子踊。藩政時代をしのぼせる歴史絵巻が次々と繰り広げられる。時空を超えて浮かび上がる夢幻の光景、四方から沸き上がる熱気と興奮。期間中、街はまつり囃子の響きに包み込まれる。

8/23

ちびっ子神輿・山車行列
午後3時～駅前通り内

8/24

宵まつり山車パレード
午後7時～駅前通り通過予定

8/25

本まつり・神輿渡御行列
午前9時30分～駅前通り通過予定
本まつり・山車パレード
午前10時10分～駅前通り通過予定

8/26

後まつり・飾り山車
午後3時～駅前・本町・大町・中央通り
後まつり・街中鹿子踊
午後3時30分～南本町十字路・駅前通り

新庄市民憲章



新庄市章

昭和24年の市制施行に当たり、山形新聞紙上で公募されました。新庄が雪で名高いことから、外郭を雪の結晶で型取り、中央は新庄の新を単純化したものです。

私たちは最上地域の中心都市
新庄の市民です。
先人の築きあげた伝統を重んじ、新庄市民であることに誇りを持ち、愛する郷土を発展させるための、私たちみんなの誓いです。

私たちは、
自然を大切にし、健康で快適な生活環境づくりにすすんで参加します。
働くことにいきがいを持ち、産業の発展のために力をそそぎます。
教養を高め、文化を守り育てる豊かな心をつちかいます。
行動に責任を持ち、きまりを守る規律正しい生活を実践します。
たがいに理解し、協力しあい、やさしい心のかようまちづくりをめざします。

(昭和五十四年六月十日制定)

今後の
記念事業

■市民提案事業

花と緑でTSUNAGUアーケード

○とき 8月30日(日)まで ○ところ 新庄駅東口アーケード
○内容 8月末まで駅東口アーケードに市民が制作した
ハンギングバスケットを展示しています。
◎詳しくは、花の風の会へ。 ☎28-8319

食の伝承おもてなしの心

「ぜんまいいり」を作ろう!!

○とき 10月～11月 ○ところ 市民プラザ調理室
○定員 親子40組
○内容 こども食体験教室「キッズキッチン」を開催し、昔
から人の集う席のごちそうとして親しまれてきた「ぜんまい」
を調理し、山の恵みを利用した先人の知恵を学び、今も
なお伝わるおもてなしの心を若い世代の親子に伝えます。
◎詳しくは、Feel(フィール)・井上へ。 ☎090-7565-8799

新庄風フェスティバル2009

○とき 11月3日(火) ○ところ 新庄中核工業団地内
○内容 市民を対象とした凧づくり教室や、市民みんな
で「大凧製作」を実施します。また、県内外の凧愛好家を集
め新庄風フェスティバルを開催し、世代や地域を超えた交
流を図り、地域の文化を次世代へとつなぐ催しを行います。
◎詳しくは、隠明寺凧保存会・佐々木へ。 ☎22-0666

新庄吹奏楽団第26回定期演奏会

○とき 11月8日(日) ○ところ 市民文化会館大ホール
○内容 毎年開催している定期演奏会に新庄市出身で
陸上自衛隊中央音楽隊隊長の武田晃氏を迎え記念演
奏会を開催。また、「新庄市民歌」を演奏し、新庄吹奏楽
団ジュニア部の子どもたちとともに未来へつなげる演
奏会を開催します。
◎詳しくは、新庄吹奏楽団・津藤へ。 ☎090-5186-7793

第20回かもしかおたのしみ会

～ひと・つなぐ・みらい～

○とき 11月14日(土) ○ところ ゆめりあ
○内容 毎年開催している「かもしかおたのしみ会」に
児童・園児による遊戯や、地域の団体による歌や踊りのス
テージ、駄菓子屋の出店などにより、昭和時代を再現し
ます。また、商店街と連携し新庄の特産物を使った出店
や振る舞いを実施します。
◎詳しくは、新庄市かもしかクラブ連合会・事務局(環境
課)へ。 ☎内線436

■市主催事業

ちびっ子神輿・山車行列

○とき 8月23日(日)午後3時～4時30分
○ところ 新庄駅前通り内
○内容 市内各町内のちびっ子神輿や保育所・幼稚園
などのちびっ子山車が通りを練り歩きます。小若連による
囃子もあります。
◎詳しくは、商工観光課観光交流室へ。 ☎内線251

まちなか民具博物館

○とき 10月中旬 ○ところ 中心商店街
○内容 ふるさと歴史センター収蔵の民具を新庄駅を基
点に各商店街に展示します。
◎詳しくは、商工観光課商工振興室へ。 ☎内線259



市民パワーで
みらいに誇れる新庄に…



記念事業企画会議
リーダー
長 沼 建さん

昨年十一月、新庄市民の代表として市民委員五名と、市役所職員五名の、職業はもろろ年齢も性別も違うメンバーで構成する企画会議が発足しました。それから十六回の会議を重ね、記念事業のコンセプトや方向性、内容などについて話し合いました。

新庄市が六十歳という節目を迎えるにあたり、「TSUNAGU(つなぐ)をコンセプトとして、人・地域・世代・文化・環境・時がながり、未来に向かって飛躍していくこと祈念して、企画会議では夜遅くまで真

剣に議論しました。その思いが通じたのか、事業のメインである六十周年記念フラッグは、保育園、幼稚園、小学校、中学校などから多くのご協力をいただき、当日の会場は、子どもたちの夢が色とりどりに描かれたフラッグであふれ、記念式典・記念事業に花を添え、みらいへつなぐ素晴らしい催しとなりました。

この記念式典・記念事業には、来賓をはじめ、県内外より多数の皆さまにご参加いただきました。また、新庄の食を提供していただいた出店関係者や各種のアトラクションで盛り上げてくださった各団体などいろいろな方々にご協力をいただき、盛大に開催することができました。皆さまに深く感謝を申し上げます。

今回の市制施行六十周年記念事業は、新庄の良さを再認識するとともに、行政と市民が協働で行うこと



▲企画会議のメンバーとそばのふるまい

の大切さを感じる事ができた素晴らしい事業だったと思います。この事業を契機に、今後もさまざまな場面で市民パワーを発揮し、市民と行政が手を取り合い、未来を担う子どもたちに誇れる元気な新庄にしていきたいと思えます。

新庄市民歌

作詞 安藤 莊一
作曲 古閑 祐而

- 一、朝日にはゆる 月山の
山の若葉の さわやかに
汽笛のひびき はつらつと
伸びる鉄路の わが郷土
誇らん いざや新庄市
- 二、春らんまんの 花咲けば
人波まねく 観光の
名所旧蹟 数あまた
栄えいやす わが郷土
歌わん いざや新庄市
- 三、最上の流れ 水清く
希望のかけを うつつつ
新興都市の 意気高く
行く手さんたり わが郷土
たたえん いざや新庄市

地域の声を市政へ

区長と市長の まちづくり会議を開催



7月22日から29日にかけて、市内の5ブロックで「第20回区長と市長のまちづくり会議」を開催しました。今年度から各中学校区を1ブロックとして開催し、区長から提案された市政への意見を中心に地域が輝くまちづくりの実現に向けて話し合いました。提出された意見は、20件。その一部を紹介します。

観光 新庄まつりについて

■町内で山車を製作しているが、世帯数の減少や高齢化などにより他町内と合作して継続することを話し合っている。同様の状況にある町内もあり、全体の山車数は減少していくことと思われるが市としての方針は。



●作り手である町内若連の養成や引き手となる子どもたち、そして運営経費の確保など山車製作にかかっている問題は各町内共通であり、以前から継続課題となっています。山車が現在の二十一台となりましたのは平成八年で、祭り創始以降、最大数と思われる増えました。これと併行し囃子若連も山車数が減少することになります。山車連盟においては、若連の母体が消防団である場合が多いことなど、複数の若連が一緒になることは至難との見解です。しかしながら、山車製作に関するさまざまな意見があることも事実で、これらに関し

同連盟やまつり委員会との協議を重ねていきます。

■国重要無形民俗文化財の指定を受けたことで変わる点はあるのか。

●重要文化財として国指定を受けたことで、山車の製作や運営に文化庁が介入することはなく、変わることはありません。

交流 世代間・地域間の交流

■上野・蛇塚は合わせて二十五戸の町内だが、小学生以下が二十八人と子どもの数が多い。今後、昔の遊びや、ホタル狩りなどを行い、子どもたちにこの地区に住んで良かったと思われるような活動をしていきたい。また、ほかの地区や市町村とも交流を図っていきたいと考えているので行政の指導をもらえないか。

●生涯学習課で世代間交流事業を行っている地域の事例を紹介しているほか、「ふらっと」で地域づくりに関するアドバイスなども行っています。また、子どもを対象とした講座や子ども芸術学校、友好自治体の高萩市との児童交流などの事業を行っています。資金面では、五万円を限度に対象事業の合計額の二分の一を助成する「地域青少年健全育成助成事業」を実施しています。

環境 環境問題への取り組み

地球温暖化について危機感を持

つ人は少ないように見受けられる。子や孫には明るい未来を残さねばならず、市には地球温暖化の脅威や防止対策について、啓蒙を図り市民の認識の高揚につなげてもらいたい。

●市では、食品トレーリサイクル「新庄方式」の推進やレジ袋の無料配布中止、ごみの減量とリサイクルの促進などを実施しています。特に食品トレーリサイクルについては、従来のスーパー店頭での回収に加え、市内小学校での回収や要望のあった町内会のごみステーションでの回収を実施するなど、市民・事業者・学校関係者の協力を得て拡充を図っています。また市役所では、ISO14001規格に基づいた環境マネジメントシステムを平成十四年度から継続して運用し、省エネ・省資源・ごみ減量に全庁的に取り組み、その様子を市報などにより市民にお知らせしています。

そのほか、本市と周辺町村、県最上総合支庁とで構成する「もがみ地



地域づくりに活用ください コミュニティ助成事業

コミュニティ助成事業は、(財)自治総合センターが宝くじの普及広報事業費を財源として、地域のコミュニティ(地域社会)活動に対して助成を行うものです。

◆助成対象

自治会・町内会などの地域的な共同活動を行っている団体、またはその連合体。

◆事業区分

コミュニティ活動に必要な施設・設備整備事業、植樹・植栽などの緑化推進事業、自主防災組織育成事業、コミュニティーセンター新築・大規模修繕事業、青少年健全育成事業

◆申請方法

団体などから市を通して(財)自治総合センターへ申請します。

◆必要書類

申請時には、あらかじめ申請書および添付書類、見積書などが必要です。

◆申請受付

9月上旬(22年度に実施する事業が対象)
※事業の実施を希望する自治会・町内会などは事前にご相談ください。

21年度宝くじの助成金で整備した団体

【上茶屋町町内会】

○助成額 150万円

○助成事業 公民館、地域行事備品の整備(テレビ、石油暖房器、テント)



◎事業についてのお問い合わせや相談は、政策経営課企画政策室へ。 ☎内線242



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に役立てられています。

交通 公共交通機関の確保を

球温暖化対策協議会」と連携し随時啓発イベントを開催しています。今後も、全市的に環境への負荷を考える機会を提供していきます。

■今後も核家族化が進み、老人世帯の増加が予想される。交通の不便な地域で、バスの便数も年々減少しているが、最低限の交通の確保が安心な生活を送るために必要と思われるが市の取り組みは。

●自家用車の普及などにより公共交通の利用者は減り続け、その結果バス路線が減少してきています。一方で、移動手段をもたない高齢者は今後増え続けると考えられ、公共交通機関の整備は、障がい者や児童・生徒なども含め日常の足を確保するために重要な課題となっています。本市では、平成十九年度から

市営バス二路線を運行していますが、山交バス(株)廃止路線の代替手段確保のための路線であるため、今後は地域のニーズを把握し、民間事業者との住み分けや、効果的な運営方法を研究していきたいと考えています。

防災 自主防災組織について

■大災害の初期段階は、行政機関の早急な対応は難しいと思われる。地域住民が協力し合い、自主防災活動を行うため、活動の中心となる防災リーダーを育成し、災害の拡大防止に努めることが必要では。

●まだ記憶に新しい阪神・淡路大震災(平成七年)では、約九十五%の人が自力や家族隣人に救助されたとの報告があります。自主防災組織の立ち上げについて、毎年区長協議会に説明しています。また、自

主防災組織の組織づくりに向けた出前講座や説明会の機会を設け、啓発活動に取り組んでいます。大規模な災害が発生した場合、自助・共助が最も大切であることから今後も組織化に向けた助言や啓蒙啓発活動を実施し、地域の人材を育成するとともに「安全で住みよい災害に強い」まちづくりを構築していきます。

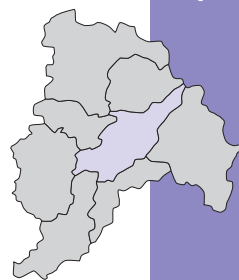
財政 市の財政状況について

■全国的に地方自治体の財政は厳しい状況にあるが、行財政改革に取り組み財政再建している自治体もある。新庄市は現在どのような状況か。

●平成十五年までに実施した新幹線延伸や公共下水道整備事業などの大型公共事業や最上広域市町村圏事務組合の分担金の増加、税収

などの歳入の減少により財政が悪化し、平成十六年度に財政再建計画を策定しました。その後、職員数の削減や起債(借金)の抑制に取り組み、平成十六年度から平成二十年度までの五年間にその対策による節減額は五十二億円となり、平成十一年度に二百二十八億円あった一般会計の起債残高は平成二十年度に百五十九億円まで減少しています。新幹線関連の起債の多くは平成二十年度で返済が終わったため、今年度から起債の返済額は大きく減少し、中学校給食、学校耐震化、道路・流雪溝の整備などの新たな事業に取り組みようになっています。このように市の財政状況は着実に健全化が進んでおり、平成二十二年度決算では実質公債費比率二十五%を下回る見込みとなっています。今後も財政の健全化に努め、より良いまちづくりを進めます。

新庄市・戸沢村合併協議会廃止へ



七月二十七日に開催された第六回新庄市・戸沢村合併協議会で、戸沢村から合併協議会離脱の表明がありました。今後、新庄市・戸沢村両議会の議決を経て、八月三十一日をもって新庄市・戸沢村合併協議会を廃止することとなります。



戸沢村離脱を申し入れ

新庄市・戸沢村合併協議会は、四月二十七日の第一回協議会からこれまで六回の協議会を開催し、合併に必要な協定項目の約八割を決定していました。

しかし、この間、戸沢村では、二回にわたる住民投票条例制定の請求などがあり、六月に「合併についての村民意向調査」を実施しました。その結果、「合併すべきでない」という意見が過半数を占めたため、渡部戸沢村長は合併協議をこれ以上進めることは困難と判断し、合併協議から離脱する旨の申し入れを行いました。

八月末で協議会廃止

これまで市と戸沢村は、来年三月二十三日の合併を目指し調整を

進めてきましたが、市は戸沢村の判断を重く受け止め、合併協議は終了せざるをえないとの結論に達しました。そのため、八月十日に新庄市・戸沢村両議会で合併協議会廃止の議決をいただき、その後、清算事務などの手続きを行い、八月三十一日をもって廃止することになります。

戸沢村長の説明

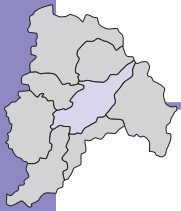
苦渋の選択となりました。村内の懇談会で住民の意見を尊重すべきとの意見が多くあり、住民投票条例制定は村議会で二度否決されましたが、村民の意向を聞く必要があると判断しました。賛成・反対の理由と年齢別の詳細を把握するために意向調査しましたが、反対が過半数を占め、若年層で平均以上に反対が多く想定外の結果となりました。懇談会の状況と意向



調査結果を重く受け止め、協議会からの離脱を決意しました。

このような結果に至ったことをお詫び申し上げます。新庄市には、戸沢村のために全力を尽くしてもらい感謝しています。暖かい支援に報いることができず残念でなりません。

今後は自立のむらづくりをやっていくこととなりますが、協議の結果を生かしながら、地域づくりをやっていきたく考えています。この地域は新庄市を中心に地域づくりを行っていかねばなりません。今後、地域のあり方について叱咤激励、ご支援ご協力をいただきませうよろしく願います。



市長の考えと今後の方針

このたび、合併を断念せざるを得ないこととなり、大変残念な思いです。

平成十九年十月市長に就任しましたが、当時、市町村の最上広域分担金を軽減するため、六つある消防署を統合し一署にするこ

とが議論されていきました。わたしは、統合すべきは救急・消防ではなく行政であり、行政が枠組みを取り払い一つになり、消防署は残して住民の安心・安全を守っていくべきであると主張しました。

郡内町村長に呼びかけ、平成二十年一月に将来像検討会を設置し、最上地域の将来について議論を始めました。その後いろいろな経過をたどり、最後は戸沢村との一対

一の合併協議となりました。議会と一体となつて実現を目指し進めてまいりましたが、今回の戸沢村の合併協議会離脱という判断は住民の意向を踏まえたものであり、やむを得ないものと受け止めました。

合併協議が終わっても、人口減少、少子高齢化、財政難といった地域共通の課題は消えるわけではあり

ません。新庄市と最上七町村は共存共栄の関係にあり、これを大事にしていかなければならないという考えに変わりはありませんが、今後の地域課題に対しては八市町村それぞれが自らの力で立ち向かうこととなります。

新庄市としては、皆さまの協力により財政状況は着実に好転しておりますが、さらに行財政の効率化を進め、このたびの合併協議で示された「地域が輝くまちづくり」

合併協議を生かしたまちづくり

現行の新合併特例法は来年三月末で期限が切れ、国の施策も「平成の大合併」と呼ばれた合併推進から大きく転換されようとしています。しかし、人口の減少や地方交付税の削減など、市町村を取り巻く状況が厳しさを増すことにより

そのような中で、いかに住民ニーズの多様化、高度化に対応し、十分な住民サービスを提供していくかが、市町村に課せられた責務です。これまで、地域が輝くまちづくりに向けて市が協議してきたことは決して無駄ではなく、今後のまちづくりに生かすことができま

す。市としても協議経過を今後の「まちづくり総合計画」の策定に役立てていきます。

今後、市は、これまで取り組んできた財政の健全化をさらに進め行財政基盤を強化しながら、最上地域の中心市として地域を守り、次世代に向けた強いまちづくりを進めていきます。

これまでの経過

- 二十年一月 新庄・最上八市町村による最上地域将来像検討会発足
- 二十年九月 新庄市、真室川町、鮭川村、戸沢村の四市町村による最上地域合併研究会発足
- 二十年十一月 四市町村による新庄最上地域合併検討協議会(任意協議会)設立
- 二十一年一月 新庄市、真室川町、戸沢村の三市町村による新庄最上地域合併協議会(法定協議会)設立
- 二十一年三月 真室川町が住民アンケート結果を受け町議会が議決し離脱
- 二十一年四月 協議会規約を一部変更し、新庄市・戸沢村合併協議会とする
- 二十一年六月 戸沢村で村民意向調査を実施 住民の五十一・五％が反対
- 二十一年七月 戸沢村からの申し入れを受けて協議会廃止へ

合併協議を生かしたまちづくりへ

高額療養費の医療・介護合算制度が始まります

医療と介護の両方のサービスを利用している世帯の負担を軽減するため高額医療・高額介護合算療養費制度が始まりました。8月から翌年7月末までに支払われた医療保険・介護保険の自己負担額(高額療養費および高額介護サービス給付費として支給された金額を除く)が次の基準を超える場合に、その超えた金額を支給します。

ただし、今年度分については、20年4月から21年7月末の16カ月間の自己負担額が、右のカッコ内の基準額を超える場合に、その超えた金額を支給します。

※申請は、加入保険へ。被用者保険(社会保険・共済など)の方は、事前に福祉事務所へ介護保険自己負担額証明書の交付申請が必要です。◎詳しくは、国保・後期高齢者医療は健康課☎内線512、517、介護保険は福祉事務所☎内線548へ。

自己負担限度額一覧

	後期高齢者医療制度 十介護保険		被用者保険または国保 十介護保険 (世帯内の70歳~74歳)	被用者保険または国保 十介護保険 (70歳未満を含む)
	現役並み所得者 (上位所得者)	67万円(89万円)		
一般	56万円(75万円)			67万円(89万円)
低所得者 (市民税非課税世帯)	II	31万円(41万円)	31万円(41万円)	34万円(45万円)
	I	19万円(25万円)	19万円(25万円)	34万円(45万円)

※()は20年4月から21年7月の16カ月間の基準額

国民健康保険限度額 適用認定証の更新

入院時に高額療養費の限度額を適用する限度額認定証は、有効期限が7月31日です。8月以降に入院する人は、更新手続きが必要です。申請月の初日から適用になります。

【必要な物】国民健康保険証、印鑑

◎詳しくは、健康課国保医療室へ。☎内線512

国民健康保険の 保険証が新しくなります

9月1日から、国民健康保険の保険証が新しくなります。新しい保険証は8月20日ころに発送する予定です。有効期限は、22年8月31日です。なお、古い保険証は9月1日以降、確実に処分してください。また、ジェネリック医薬品希望カードを同封しますので、ご活用ください。

◎詳しくは、健康課国保医療室へ。☎内線511・512・517

新型
インフル
エンザは

最寄りの医療機関で受診できます

新型インフルエンザの相談・受診が一般の病院・診療所でもできるようになりました。

インフルエンザかもしれない? そう思ったら…

○一般の人

受診する前に医療機関に電話して、受診時間帯や受診方法を確認してください。事前に電話連絡をしないで直接行くことのないようにしましょう。重症で救急車を呼ぶ場合も、必ずインフルエンザの症状がある事を伝えてください。

○慢性疾患など持病があってかかりつけの医師がいる人
かかりつけの医師に事前に必ず電話をして、受診方法などを確認してから受診しましょう。

○妊娠している人

かかりつけの産科医師に電話して、受診する医療機関の紹介を受けましょう。

※産科医師が紹介先に診療情報を提供する場合があります。

○相談体制

受診機関が分からない場合や、自宅療養に関することなどお気軽にご相談ください。

◎詳しくは、最上保健所・発熱相談センター☎29-1268、健康課健康推進室☎内線454へ。

住まいの安全を支援します

市では、住宅の耐震改修促進のため、次の2つの事業を実施して住まいの安全を支援します。



◆木造住宅耐震診断士派遣事業

耐震診断士を派遣し、木造住宅の地震に対する安全性を評価します。

○対象住宅

- 昭和56年5月31日以前に着工された戸建住宅
- 在来軸組工法による木造平屋建て、または木造2階建て住宅(高床式は該当しません)

○自己負担 6,000円(診断費用60,000円の1割負担)

○募集戸数 10戸

◆高齢者すまいの地震あんしん事業

市と県の職員が高齢者の住宅を訪問し、地震対策についてアドバイスします。

○対象住宅 65歳以上の高齢者のみ世帯の住宅

○費用 無料

○募集戸数 10戸

◎いずれも詳しくは、都市整備課建築住宅室へ。

☎内線522

子宮頸がん検診・乳がん検診の無料クーポン券を配布します

◎健康課健康推進室 ☎内線516

「女性特有のがん検診推進事業」が全国的に実施されます。市では、下の表の対象年齢の人に子宮頸がん検診、乳がん検診の無料クーポン券を発行します。がん検診無料クーポン券を使い、がんの早期発見・健康増進に努めましょう。

◆対象

6月30日現在で市内在住の人で、前年度(平成20年4月2日から平成21年4月1日までの間に)20歳・25歳・30歳・35歳・40歳になった女性は子宮頸がん検診の、40歳・45歳・50歳・55歳・60歳になった女性は乳がん検診の無料クーポン券対象者になります。

■子宮頸がん検診無料クーポン券の対象年齢

年齢	生年月日
20歳	昭和63年4月2日～平成元年4月1日
25歳	昭和58年4月2日～昭和59年4月1日
30歳	昭和53年4月2日～昭和54年4月1日
35歳	昭和48年4月2日～昭和49年4月1日
40歳	昭和43年4月2日～昭和44年4月1日

■乳がん検診無料クーポン券の対象年齢

年齢	生年月日
40歳	昭和43年4月2日～昭和44年4月1日
45歳	昭和38年4月2日～昭和39年4月1日
50歳	昭和33年4月2日～昭和34年4月1日
55歳	昭和28年4月2日～昭和29年4月1日
60歳	昭和23年4月2日～昭和24年4月1日



(乳がん検診無料クーポン券の見本です)

◆無料クーポン券とは…

対象者は、無料クーポン券を使用することにより、無料で子宮頸がん、または乳がん検診を受診できます。対象者で、4月以降すでに検診を受けた人には、無料クーポン券および領収書と引き換えに自己負担金をお返しします。

◆無料クーポン券の送付と利用期間

対象者には、8月下旬に、無料クーポン券と検診手帳を送付します。受診できる期間は、9月1日から22年2月28日までです。

◆検診機関

市と契約した検診機関・医療機関で受診できます。詳しくはクーポン券と一緒に送付される案内をご覧ください。

シリーズ

健康と食 夏のドロドロ血液を改善する食生活

夏の血液が冬よりもドロドロになりやすいことをご存知ですか。

夏は汗をかいたり、冷房による湿度の低下などで毛細血管が収縮し血液の粘度が増し、流れが悪くなりがちです。

血流が悪くなる要因

- ◆赤血球は伸縮して形を自由に変えることで細い血管も通り抜けるが、血液の状態が悪くなると、しなやかさ、やわらかさを失いネバネバする。
- ◆白血球は赤血球より大きく変形もしにくいいため、血管に付着すると血液の流れを滞らせる。体に不調があると白血球が活性化し数が増え、粘着度が増しベタベタする。
- ◆血小板は血管が傷つくなど異常があると凝固する。
- ◆血しょう成分に抗酸化物質が不足している。

ドロドロ血液の原因

- ◆ストレス、過労、睡眠不足、喫煙により、白血球が活性化し、粘着度が増す。
- ◆糖尿病、肥満により、血糖値が高いと赤血球の膜に異常が出て、流れが悪くなる。
- ◆お酒の飲みすぎや糖分のとりすぎは血小板がかたまりやすくなる。

◆◆◆食生活のポイント◆◆◆

血液サラサラになる食品

「お茶・魚・海藻・納豆・酢・きのこ・野菜・ねぎ類」を「オ・サ・カ・ナ・ス・キ・ヤ・ネ」と覚えて、積極的に料理にとりいれるようにしましょう。

特に、野菜は1日350gから400gを目安にとりましょう。

ネバネバ野菜のツルムラサキ、オクラ、モロヘイヤには、カロテンなどの抗酸化成分、ビタミンB₂、カルシウムやカリウムが豊富です。これらのネバネバ成分には血糖値やコレステロール値の上昇を抑える作用がありますので出来るだけ多く食べるように心がけましょう。

夏野菜は、生で食べられるものが多く、調理によるビタミンの損失も少なく、火を使わないために暑い日でも調理しやすく、シャキシャキ感のある歯ざわりは食欲増進にもつながります。

生野菜に塩を少量加えるだけで、体液に近い理想的な状態の水分になります。水分は生野菜からも補給できます。

ドロドロ血液を解消し、サラサラ血液で夏を元気に過ごしましょう。

※健康課では、各種生活習慣病予防についての教室を開催しています。内容は、生活習慣や病気予防に関するお話と、テーマに合わせた料理を作って試食します。

◎詳しくは、健康課健康推進室へ。 ☎内線514

聞録

季節の話題・市政の動き・催しなどを紹介するページです



▲願いが込められた灯りが川面を彩る(7月28日/升形川)



▲みんなで協力しながら夕食を準備「通学合宿」(7月22日～25日/円満寺公民館)



▲それぞれが民話を語り合った「こども民話交流会」(7月27日/昭和小学校)



▲七夕の夜に開催された「みちのく民話まつり・夏語り」(7月7日/ふるさと歴史センター)



▲新庄もみの木ライオンズクラブが寝袋を寄贈(7月13日/市役所)



▲国際ソロプチミスト新庄が大型紙芝居を寄贈(7月10日/市役所)

夏休み、思い出の1ページに

升形川で、河川清掃やこいのぼり上げ、花の植栽などの活動をしている「升形川に親しむ会」(青木恒治会長)が、子どもたちに夏の思い出をつくってもらいたいと灯ろう流しを行いました。会員の手づくりの灯ろうや子どもたちが絵や願いを書いた灯ろう1800個が流され、川面に映るやわらかい灯りで幻想的な雰囲気になりました。

通学合宿で共同生活体験

親元を離れ、子ども同士の共同生活を通し、健全な心と自立心をはぐくんでもらいたいと木栄町町内会などで組織する実行委員会が通学合宿を実施しました。円満寺公民館から学校へ通学する3泊4日の合宿には沼田小学校の2年生から6年生12人が参加。夕食の準備や買い物など子どもたちで協力し合いながら共同生活を楽しみました。

昔 とんと あったけど

「昔 とんと あったけど」で始まる新庄の昔話。夏の夜に新庄・最上地域に伝わる民話や昔話を楽しもうと「みちのく民話まつり・夏語り」を開催し、新庄民話の会会員が7つの昔話を披露しました。また、民話を通じた地域間交流を深めようと、秋田県羽後町の小学生12人が昭和小学校を訪れ、それぞれが学んできた民話を披露しました。

市に善意の寄付

【大型紙芝居】国際ソロプチミスト新庄から子どもたちに本に親しんでもらいたいと大型紙芝居を寄贈いただきました。
【寝袋】新庄もみの木ライオンズクラブから子どもたちの健全育成に役立ててもらいたいと寝袋30個を寄贈いただきました。
【車いす】新庄商工会議所女性会から福祉の増進に役立ててもらいたいと車いすを寄贈いただきました。



栄光をたたえて

■最上地区中学校総合体育大会

【陸上競技】男子／100m 1年①浅沼恵太(日新) **2年**①川瀬拓(日新)③星川志侑(新庄) **3年**③黒坂優汰(新庄) **200m共通**①黒坂優汰(新庄) **400m共通**②高橋拓(明倫)

800m共通②小林駿(明倫)③佐々木匠(萩野) **1,500m 1年**①武田晃典(明倫) **2・3年**②矢口頌(日新) **3000m共通**②矢口頌(日新) **110mハードル共通**①高橋悠(明倫)③今田和貴(明倫) **走り幅跳び**②今田和貴(明倫)③丹遼(新庄) **砲丸投**②森拓也(萩野)

400mリレー低学年②日新共通③新庄 **四種競技**①高橋悠(明倫) **男子総合**①明倫 **男女総合**③明倫

女子／100m 1年③佐藤明日香(新庄) **2年**③鬼嶋明子(新庄) **200m共通**①青木成美(新庄) **800m共通**②小野茉倫(萩野) **100mハードル共通**②鎌田真優(新庄) **走り幅跳び**①青木成美(新庄) **走り高跳び**③須藤茜(新庄)

400mリレー低学年②新庄共通①新庄 **四種競技**②佐藤心(萩野) **女子総合**③新庄 **【相撲競技】団体1部**①日新③明倫 **団体2部**①明倫②日新 **個人3年**②山科凌(日新) **2年**①新橋広大(明倫) **1年**①高橋恭平(明倫)③松田優哉(日新) 沼澤亮太(日新)

■新庄市小学校陸上競技記録会

男子／100m①三上陽輝(沼田)②鎌田雄大(新庄)③奥山正樹(泉田) **1000m**①丹宏介(泉田)②高橋草太(沼田)③小野涼太(北辰) **走り幅跳び**①新山壮一郎(日新)②伊藤孟徳(新庄)③永澤和高(新庄) **走り高跳び**①佐藤翼空(新庄)②大野凌平(泉田)③高橋裕馬(日新) **ソフトボール投げ**①紀伊海秀(沼田)②松田悠吾(新庄)③矢作佑登(萩野)

400mリレー①新庄②沼田③日新

女子／100m①阪彩美(日新)②奥山詩穂(新庄)③小田島桃子(新庄) **800m**①渡辺未来(新庄)②沼澤美咲(本合海)③伊藤満里奈(昭和) **走り幅跳び**①国分桃香(新庄)②佐藤ゆい(新庄)③佐藤奏子(新庄) **走り高跳び**①荒川莉彩(日新)②叶内美紅(萩野)③長南美里(日新) **ソフトボール投げ**①吉田舞(新庄)②佐藤瑠奈(新庄)③阿部日和(新庄)

400mリレー①日新②新庄③本合海

■新庄市少年野球リーグ戦

①萩野フルスイングス②日新レッドスターズ③沼田ブルーリトルソルジャーズ

■山形県高等学校総合体育大会

【柔道競技】男子73kg級①佐藤悠人(新庄東) **90kg級**③今田卓耶(新庄東)



▲消防操法技術の向上を目指して開催された「消防団操法審査会」(7月4日／市陸上競技場)



▲まつり囃子の生演奏に合わせて踊りを披露した「チェレンコまつり」(7月26日／ゆめりあ)



▲あじさいいけばな展
(7月11日～12日／市民プラザ)



▲あじさいまつり(7月19日／あじさいの杜)



▲児童文学研究家の赤木かん子さんを招いて「読み聞かせボランティア研修講座」を開催(7月4日／市民プラザ)



▲新庄商工会議所女性会が車が寄贈(7月28日／市役所)

ら・せ

イベントや行政案内など
まちの情報を紹介するページです

きれいな川で住みよいふるさと運動

○9月6日(日)午前6時～8時
○市内8河川の河川清掃(ゴミ拾い、除草など)
○都市整備課雪対策・道路管理室 ☎内線533

わくわく新庄 各種教室のご案内

わくわく子ども英会話教室

▼対象 小学3～6年生15人
(保護者同伴) ▼とき 9月2日、9日、16日(水)午後7時～8時30分 ▼講師 井上博さん、ニコレ・ダグラスさん ▼参加費 1,000円(親子一組・三回分)

わくわくヨガ教室

▼とき 9月3日(平成22年2月25日)の毎週木曜日午後7時15分～8時30分(全25回)
▼講師 海藤直子さん
▼月会費 2,000円(1回500円の体験コースあり)
問 わくわく新庄 ☎23-0197

民俗資料調査と整理 ボランティア募集

所蔵民具の調査・記録を行うボランティアを募集します。
▼活動日時 毎週木曜日午後

1時30分～4時30分
▼ところ ふるさと歴史センター
▼内容 新庄民具研究会の指導により調査を行います。
問 ふるさと歴史センター ☎22-2188

市民プラザ・国際交流支援会 協働「日本語教室」後期

▼対象 新庄・最上地区在住の外国人 ▼とき 初級Ⅱ 8月30日(日)から、初級Ⅲ 9月9日(水)から、中級Ⅱ 5日(土)から3コース(各全14回)
▼参加費 各1,000円
▼申し込み 事前に電話で
問 市民プラザ ☎22-4200

第44回山形県 発明くふう展作品募集

▼対象 小・中・高校生、教職員、個人・中小企業の従業者
▼作品 1人または共同で発明くふうしたもの、縦・横・高さ1

メートル・重さ20キロ以内
▼申し込み 9月16日(水)まで
▼くふう展 10月16日(金)～18日(日)/米沢市
問 発明協会山形県支部 ☎023-644-3316

タバスプランチ料理教室 参加者募集

▼とき 8月29日(土)午後4時～▼ところ 市民プラザ
▼講師 笹美知子さん
▼材料代 3,500円
▼申し込み 8月27日(木)まで
問 事務局 笹 ☎22-2086

女性のためのパソコン講座

「はじめてのパソコン講座」
9月3日(木)、8日(火)、10日(木)、15日(火)
「エクセル基本講座」
9月28日(月)、30日(水)、10月2日(金)、5日(月)

第15回 衆議院議員総選挙・ 第21回 最高裁判所裁判官国民審査

○とき 8月30日(日)午前7時～午後8時
○ところ 市内指定投票所(入場券に記載)
※携帯電話用QRコード
(市内投票所一覧)



期日前投票
【衆議院議員総選挙】
8月19日(水)～29日(土)
【最高裁判所裁判官国民審査】
8月23日(日)～29日(土)

※期間が異なりますのでご注意ください。
投票はいずれも午前8時30分～午後8時、
市選挙管理委員会事務室で。
○詳しくは、選挙管理委員会事務局へ。
☎内線421

まつり期間8月25日(火) のごみ収集について

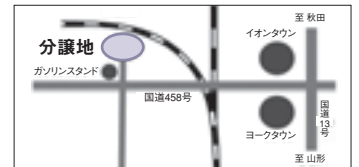
新庄まつり期間中は早朝にごみを収集します。収集日が8月25日(火)にあたる町内の人は、必ず24日(月)午後11時までにごみを出してください。
○詳しくは、環境課環境保全室へ。
☎内線431

平和都市宣言旗掲揚式

○とき 8月15日(土)午前11時45分～午後0時5分
○ところ 市役所前駐車場
○内容 戦没者・原爆犠牲者の追悼、平和記念黙とう、正午にサイレンが鳴ります
○詳しくは、市平和都市宣言推進会議へ。
☎内線215

宅地分譲のお知らせ

万場町地区宅地1区画を分譲します。
○面積 352.52㎡ ○価格 11,738,916円



◎詳しくは、市土地開発公社へ。☎内線530

危険物取扱者試験

▼とき 10月3日(土)
▼ところ 神室産業高校

問 山形県高齢障害者雇用支援協会 ☎023-645-4406

アピリンピクやまがた (障がい者技能競技)開催

▼とき 9月4日(金)午前9時～午後3時 ▼ところ 山形テニールサ ▼種目 ワード・プロセッサ部門、喫茶サービス部門など
▼参加費 無料
問 山形県高齢障害者雇用支援協会 ☎023-645-4406

県立山形職業能力開発専門学校 受講料各講座10,500円(テキスト代含む)

▼申し込み 8月20日(木)まで(定員各20人)
問 県立山形職業能力開発専門学校 ☎023-644-9227

応援します！在宅介護

福祉用具レンタル事業

福祉用具を必要な期間お貸しするシステムです。経済的にご利用いただけます。

住宅改修事業

長年住み慣れた家で安心して生活していただけるように、身体状況に合わせて、バリアフリー仕様への改修の相談・施工を承ります。公的補助金(上限20万円)の申請等につきましてもアドバイス致します。

福祉用具販売事業

搬入時の設置や取扱い方法のご説明からメンテナンスなどにも迅速に対応致します。

患者搬送事業

車椅子やベッドのまま、病院の通院、入退院、養護福祉施設などへの移送、また、旅行などにも送迎いたします。お気軽にご相談下さい。(事前に予約が必要です)
▲福祉タクシー利用券・重度身体障害者移送サービス事業もご利用いただけます。



株式会社 医療救急サービス
〒996-0026 新庄市大町2-26
フリーダイヤル ☎0120-64-1199
<http://www.3ic-net.or.jp/~sheep/index.html>



「嗚呼 満蒙開拓団」最上町上映会

- 8月23日(日)午前10時～、午後2時～
- 最上町中央公民館ホール
- 前売券1,000円、当日1,200円
- NPO法人やまなみ ☎43-4567

8月の お・知

催しなど

第12回 わくわく新庄フェスティバル

- とき 9月5日(土)、6日(日)午前9時～午後9時(6日は午後4時まで)
- ところ わくわく新庄
- 内容 絵画、書道、華道、絵手紙、ステンドグラスなどの展示、歌と踊りの集い(5日午後6時～)、あそびの広場(6日午前10時～)、食堂、バザー、お茶席など
- ◎詳しくは、わくわく新庄へ。☎23-0197

沢内義明「アリのつばやき作品展」

- とき 8月4日(火)～9月30日(水)
- ところ 雪の里情報館雪国ギャラリー
- ◎詳しくは、雪の里情報館へ。☎22-7891

第7回「新庄かかし祭り」

- 上山市「全国かかし祭」のかかしも特別参加します。
- とき 8月2日(日)～9月13日(日)
- ところ エコロジーガーデン
- ◎詳しくは、かかし祭り実行委員会(農林課バイオマス推進室)へ。☎内線266

「産直まゆの郷」新庄まつり市

- とき 8月23日(日)～25日(火)午前9時～午後6時(24日のみ午後5時まで)
- 内容 夏野菜、花、お祭り用農産物の販売
- ◎詳しくは、産直まゆの郷へ。☎23-5007

「アースearth」上映会

- とき 8月16日(日)午後2時～
- ところ 市民文化会館大ホール
- ※入場無料ですが、整理券が必要です。
- ◎詳しくは、ASA朝日へ。☎23-1950

「GATE」上映会

- とき 8月29日(土)①午後2時～②午後7時～
- ところ 市民プラザ大ホール
- 料金 前売券1,000円、当日1,300円
- ※当日マツ・テイラー監督が講演します。
- ◎詳しくは、映画GATE上映実行委員会へ。☎22-2545

第31回 市総合体育大会

- 【ソフトボール】8月30日(日)・横根山運動広場
- 【柔道】9月21日(月)・市武道館
- 【野球】9月24日(木)、28日(月)、10月5日(月)・市民球場(ナイター開催)
- ◎詳しくは、市体育協会へ。☎22-0681

▼区分 ①一般A / 昭和61年4月2日～平成4年4月1日生まれ、②一般B / 昭和55年4月2日～昭和61年4月1日生まれ ※他に消防士経験者、スポーツ経験者の募集あり

▼試験日 10月18日(日)

▼区分 ①一般A / 昭和61年4月2日～平成4年4月1日生まれ、②一般B / 昭和55年4月2日～昭和61年4月1日生まれ ※他に消防士経験者、スポーツ経験者の募集あり

▼試験日 10月18日(日)

最上広域消防職員採用試験のご案内

▼区分 ①一般A / 昭和61年4月2日～平成4年4月1日生まれ、②一般B / 昭和55年4月2日～昭和61年4月1日生まれ ※他に消防士経験者、スポーツ経験者の募集あり

各種無料相談会のご案内

▼区分 ①一般A / 昭和61年4月2日～平成4年4月1日生まれ、②一般B / 昭和55年4月2日～昭和61年4月1日生まれ ※他に消防士経験者、スポーツ経験者の募集あり

▼とき 11月15日(日)午後1時～3時

▼とき 9月1日(火)午後1時30分～3時30分

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

排水設備工事責任技術者試験

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

日本赤十字社職員採用試験のご案内

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼職種 一般事務職および看護師職(いずれも若干名)

▼申し込み 9月11日(金)まで

▼申し込み 9月11日(金)まで

▼申し込み 9月11日(金)まで

▼申し込み 9月11日(金)まで

▼申し込み 9月11日(金)まで

▼申し込み 9月11日(金)まで

▼申し込み 9月11日(金)まで

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

☎22-2674

▼申し込み 8月24日(月)～9月2日(水)まで

▼申し込み 9月1日(火)～9月30日(水)

☎023-631-0761

☎22-2674

☎023-631-0761

いきいき
新庄人

あふれる創作意欲を
多様な表現で見せる

小野 淳さん(小泉)

「挫折を繰り返しながら、それでもまだ創作を続けています。股関節の手術で入院した時は、次の手術の合い間に退院した3カ月で個展を開いたこともありましたが、作品やさまざまな道具、天井まで積み上げられた本に囲まれたアトリエで、小野さんはそう話してくれました。小野さんは新庄市在住の芸術家。油絵から始まった創作活動は30年を超え、今も新たな分野にチャレンジしています。



「油絵をやっていたころ、だんだん描くことが義務のように感じられるようになっていました。途中、壁にぶつかり、絵をやめて彫刻を始めたこともあります。石や木を削ることにより、新たな表現方法も見つけ、絵に対する意識も変わりました。1989年には油絵に限界を感じ、翌年からアクリル画を始めました。そして、1997年にはオブジェ中心の創作活動へと移りました。作品の素材感を大切にしたい、コンピューターでできることはしたくないんです」と話す小野さんの作品は、木や、アルミ、ブリキなどの金属と、いろいろな材料を組み合わせ

作られています。そして、立体的な女性像であったり、立体的なモチーフが箱型の額に納められたもの、絵画を囲むフレームの作品など、言葉では言い尽くせない、さまざまな形で表現されています。

「今回の個展は会場を完全に仕切って、中原淳としての美術作品展と本名の小野淳としての写真展を行います。一人の人間が異なる感性で作った作品です。そういう意味でそれぞれの入り口を設け、会場の雰囲気も変え、二つの世界を作り出しました」

作品のことが常に頭にあるという小野さん。写真を撮り始めたのも、作品のモデルや素材として使うためでした。そこから写真に興味を持ち始め、最上郡内の廃校を巡って写真を撮るなどしています。「美術界は50歳でようやく新人と言われることもあります。まだ40代のわたしですが、この個展から新たなスタートを切りたいと思っています」
小野さんの個展は、8月17日まで市民プラザにて開催されています。ぜひご覧ください。



▲多くの作品が並ぶ小野さんのアトリエ

きらり輝く サークル
団体紹介

ボタニカルアートしんじょう

講師 西田 千賀子

ボタニカルアートの基本は植物を忠実に描くことです。その上で見る人の心をひきつける絵を描く、「花の肖像画」とも呼ばれます。

このボタニカルアートのサークルを作るきっかけになったのは、平成十四年に行われた花咲かフェアでの講座でした。受講者からボタニカルアートを続けたいと希望があり、翌年、現在のサークルの基となる市民プラザでの講座が始まりました。現在の会員は十七人。月一回集まって、朝夕方までかけて、植物を丹念に観察しながら一つの作品を仕上げます。会員たちが集中して完成させた作品は、毎年市民プラザまつりで展示していますので是非ご覧ください。



▲ボタニカルアート制作
(7月18日/市民プラザ)
※講師の西田さんのボタニカルアート作品展が、9/23～28に市民プラザ2階ギャラリーで開催されます。

郷土の歴史

ひとくち

新庄市史

29 宝暦の飢饉と

新庄まつりの始まり

江戸時代は、戦のない時代ではあったが、冷害や霜害などの天候不順により農作物が実らず、食物がなくて多くの餓死者を出す「飢饉」が度々あり、人々を苦しめた。新庄でも、宝暦五年(一七五五)大凶作となり、翌年には「亥年の大飢渴」と呼ばれるほど多くの餓死者が出た。

時の新庄藩五代藩主・正誼は、領民を救うべく、幕府から米三千俵を借り上げ(宝暦六年三月)、村々に分配した。また、九月二十五日には、藩主・戸沢家が靈騷あらたかな神として代々信仰し、城内に祭つてある天満宮の祭礼(天満宮祭り)を新たに行うこととした。飢饉からの回復と五穀豊穡を願って、神輿を城下(侍町・町人町)に巡行させ、その際、町方からはそれぞれ趣向を凝らした「飾り物」を自由に出すようにお触れを出した。

祭り当日は、前日までの雨もやんで晴天となり、神輿渡御行列が厳かにも静々と城門の外へ出てくると、各町内で揃えた花傘鉾(大きな傘の上に鉾や長刀、造花を取り付け祭りの神を招く目印としたもの)や思

～図書館はオアシス～

BOOKS NOW!

今月のおすすめ

『ターシャ・テューダー最後のこぼし』
—ラスト・インタビュー「人生の冬が来たら」

白泉社／発行

2008年6月に帰らぬ人となった絵本作家、ターシャ・テューダー最後のロングインタビュー。暮らし、仕事、人生について、92年の生涯を語るほか、家族の証言も収録。最後まで自分らしく生きたターシャの言葉が心に響く一冊です。



● 今月のテーマ展示 ●

「戦争—いのちを考える」

「平和都市宣言」記念事業として戦争の悲惨さを訴えるとともに世界の恒久平和を願い関連図書を多数展示します。

新着児童図書

- ◆きんのだまごにいちゃん……あきやま ただし
- ◆らくちんらくちん……高畑 純
- ◆おばけのバケロンざぶとんねこがおこった！……もとしい いずみ
- ◆むしむしでんしゃ……内田 麟太郎
- ◆ほんちゃん……スギヤマ カナヨ
- ◆こんた バスでおつかい……田中 友佳子
- ◆夏休みエコロジ工作—地球環境カッパ!—トモ・ヒコ

新着一般図書

- ◆生物おもしろ33話(独立行政法人農業生物資源研究所広報室)……新野孝男編(新庄市在住)
- ◆朝のこどもの玩具箱……あさの あつこ
- ◆たどりそねた芭蕉の足跡(八州廻り桑山十兵衛)……佐藤 雅美
- ◆あたりまえだけどなかなかできない33歳からのルール……小倉 広
- ◆冬虫夏草ハンドブック……盛口 満
- ◆ミッキーたくまし……西 加奈子
- ◆いっぺんさん……朱川 湊人
- ◆和・発酵食づくり……林 弘子
- ◆緋色からくり……田牧 大和
- ◆骸骨ピルの庭(上・下巻)……宮本 輝
- ◆モサ……山崎 ナオコ
- ◆家系図のつくり方が面白いほどわかる本—誰でも、いつでもできるわが家のルーツの探し方—……丹羽 基二
- ◆1万円キモノ生活—ワタシでも着れちゃった!—……たかざり しょうこ
- ◆BとIとRとD……酒井 駒子
- ◆米原万里、そしてロシア……井上 ひさし
- ◆思い出の写真整理・保存・修復・活用法—団塊世代に贈る—……瀬川 陣市
- ◆かあちゃん……重松 清
- ◆山形スクリーム……丹沢 まなぶ
- ◆お菓子手帖……長野 まゆみ

●開館時間 午前10時～午後6時
※7月21日(火)～8月23日(日)は、
午前9時から開館します。
●休館日 毎週月曜日
◎市立図書館 ☎22-2189



学校・距離を越えた子どもたちの交流

～新庄市・高萩市児童交流事業～

七月二十五日～二十六日の二日間、新庄市・高萩市児童交流事業「高萩サマーセッション」が友好都市である茨城県高萩市を会場に開催されました。
この児童交流事業は平成八年まで実施され、その後中断していましたが、高萩市の申し出を受け昨年から再開されることになりました。昨年八月、新庄市を訪れた高萩市の小学六年生児童と、泉田・萩野・昭和小学校の児童が、野外炊飯やクラフト活動などを行い交流しました。
そして今年、十二年ぶりとなる新庄市児童の高萩市訪問が実現しました。今回は、市青少年健全育成市民会議が主催したもので、市内小学校五・六年生児童を対象に募集し

たところ、三十二名の参加がありました。
全日程をとおして晴天に恵まれ、初日は、歓迎セレモニーの後に、高萩市内の史跡などを見学し、夜には高萩祭りの踊りコンクールに参加して特別賞をいただきました。
次の日は、高萩市の児童も加わり、海水浴場での波乗りやスイカ割り、昼食は流しそつめんを楽しみ、交流を深め子どもたちは楽しい思い出を胸に新庄への帰路につきました。
この交流事



▲松岡城跡の発掘調査現場を見学(7月25日/高萩市)

業は学校の枠を越え、市内児童と一緒に活動し、また遠く離れた高萩市の児童と交流を深める貴重な体験です。このような事業を通して、子どもたちの成長を見守ることができるよう、市では今後も活発な青少年事業に取り組んでいきます。
八月二十一日～二十三日、今度は高萩市の児童が新庄市を訪れます。市内児童との交流を通して、高萩の子どもたちにも良い思い出をたくさん作ってほしいと思います。



▲高萩まつりに参加(7月25日/高萩市)

思いの作り物・旗指物はたきざしがそれに続いて城下を巡行した。未曾有の飢饉の影響は、また色濃く残っていたものの、人々は心躍らせ喜びあったという。
古い記録では、この時の天満宮祭りは、現在の新庄まつりの山車行列そのままの形ではないようであるが、基本的に神輿渡御行列と、花傘鉾はなかさぼこや作り物の(屋台)行列やたいとして、習子なまこ供や飾り子供の行列も従い、囃子も何らかの形で従ったものと推察される。
こうして始まった新庄まつりは時代を超えて受け継がれ、二百五十四年目を数える今年の三月、重要無形民俗文化財に指定された。伝統ある新庄まつりを市民の誇りとして、これからも永く引き継いでいきたいものである。



▲昭和35年の神輿渡御行列 / 旧新庄北高前

新庄まつりが国指定の重要無形民俗文化財へ＝熱い人々を追う!

新庄まつり

特別編① — 祭りの起源を探せ! 新庄まつり探検隊

新庄まつりといえば、天満宮。新庄城址(最上公園)の南西隅にあり、新庄まつりの始まりが天満宮の祭礼とされてきた。江戸時代中期の宝暦六年(一七五六)、前年の大飢饉に打ちひしがれた領民を奮い立たせるため、時の五代新庄藩主・戸沢正誼(まさのぶ)が、戸沢家の氏神である天満宮の祭りに城下の各町内から飾り物を出させたことに始まるといわれる。県指定文化財の天満宮は、現在、建物の保存修理中。ご神体は戸沢神社にうつされている。

次に訪れたいのは、角沢街道の丸仏。松本地区の住宅街、角沢街道の傍らに立つ丸仏は、飢饉のあった宝暦五年と天明三年(一七八三)の大飢饉で亡くなった人々を弔うために建立されたもの。また、接引寺山門脇に鎮座する石の地藏尊にも、宝暦五年の飢饉の犠牲者を供養した旨が刻まれている。

新庄まつりの起源が記されている古文書も又見だ。『豊年瑞相談』は、宝暦五年の凶作・飢饉の詳細な記録であり、新庄まつりの起りとなった天満宮祭礼の記述もある。原本は新庄ふるさと歴史センター二階に展示されており、その場で解読文の載っている『新庄市史・史料編』も調べることができる。

最後は、新庄まつり絵画。新庄の祭りをこよなく愛した名誉市民・近岡善次郎氏の油彩と水彩が、祭りのこの時期に特別展示されている。馬喰町の通りを練り歩く山車を描いた百五十号の大作「ふるさとの祭り」と、庄司永建氏の名著『おおいそぎの春』の挿絵原画「お祭り」が、歴史センターの近岡記念室で鑑賞できる。

神輿もしい、籠子もしい、山車もしい。祭りに関わる史跡や文化財を訪ね歩くのもよし。祭りの絵もにぎやかだ。国指定文化財となって初めて迎える二百五十四年目の祭り。この八月は、どっぴり新庄まつりに浸ってみては・・・。

市長 コラム

祝 準優勝! 新庄東高野球部

第九十一回全国高校野球山形県予選会で新庄東高校が準優勝に輝きました。

決勝で、惜しくも敗れましたが、新庄最上の人たちに甲子園という夢と希望を与えてくれました。ノースードながら強豪を次々に倒しての決勝進出。まさに、今大会の台風の目となるすばらしい勝ち上がりでした。選手はみな地元出身ということと、日(日)に話題は盛り上がり、応援に行けない人もテレビにくぎ付けになりました。

決勝は、さすが「酒田南」甲子園の常連校というだけあって、その力をまざまざと見せつけられました。

関係者からは、「準決勝までは運良く勝ち上がったとしても、実力がなければ決勝までに行けない。力がある証拠で、これだから楽しみだ」と言われました。

決勝で学んだことを日々の練習に生かし、さらに実力を身につけて甲子園出場を果たしてもう一度、たいものですね。がんばれ新庄東高!



紙 表 の 写 真

新庄市 60歳おめでとう! ～市制施行60周年記念事業～

市制施行60周年記念事業を開催しました。実行委員会では、子どもたちに夢や希望を描いてもらいたいと記念フラッグ(旗)を500枚用意。会場で家族や友だちと書いたフラッグは、保育所や幼稚園、学校などに事前作成してもらったものと一緒に会場を華やかに彩りました。



6 月末現在の 新庄人

39,486人(39,813人)

女 20,603人(20,798人)

男 18,883人(19,015人)

世帯数 13,488世帯(13,496世帯)

6月の異動

出生 21人(23人)

死亡 46人(39人)

転入 59人(60人)

転出 54人(89人)

※()は1年前の住民基本台帳